

国立大学法人筑波大学の中期目標 新旧対照表

現 行		変 更 案		変更理由等
別表 2 (共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点)		別表 2 (共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点)		
共同利用・共同研究拠点	<p>計算科学研究センター つくば機能植物イノベーション研究センター遺伝子実験センター</p>	共同利用・共同研究拠点	<p>計算科学研究センター つくば機能植物イノベーション研究センター遺伝子実験センター <u>アイソトープ環境動態研究センター</u></p>	アイソトープ環境動態研究センターが共同利用・共同研究拠点に認定されたため
教育関係共同利用拠点	<p>日本語・日本事情遠隔教育拠点（筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター） ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点（筑波大学山岳科学センター）</p>	教育関係共同利用拠点	<p>日本語・日本事情遠隔教育拠点（筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター） ナチュラルヒストリーに根ざした山岳科学教育拠点（筑波大学山岳科学センター） <u>多様な発達特性を有する学生に対する支援人材教育拠点（筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター）</u></p>	ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターが教育関係共同利用拠点に認定されたため

## 国立大学法人筑波大学の中期計画 新旧対照表

現 行	変 更 案	変更理由等
<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(略)</p> <p>4 世界トップレベルの研究の推進に向けての目標を達成するための措置</p> <p>(略)</p> <p>基盤研究の着実な実施及び学際横断型研究の飛躍的推進に関する具体的方策</p> <p>(略)</p> <p>26 重点的な研究支援を一層加速し、WPI「国際統合睡眠医科学研究機構」や計算科学研究センター、<u>生命領域学際研究センター</u>(TARA)、人文社会国際比較研究機構、つくば機能植物イノベーション研究センター、下田臨海実験センター等を中心に世界トップレベルの研究を推進する。 &lt; KPI : 相当数の研究領域において世界 100 位以内を実現 &gt;</p> <p>(略)</p> <p>学内の研究システムの大胆な改革に関する具体的方策</p> <p>29 基礎研究、学際横断型研究、大学の戦略に基づく研究をバランスよく進めるとともに、各研究組織に対する支援や権能付与を全体として整合的でも評価に基づくものとするため、学内の研究組織を学術的な先端研究センターと開発研究センターに大別し、学術的な先端研究センターについては5年ごとに評価を実施し段階認定(4段階(R1~R4))を行う仕組みを導入する。なお、開発研究センターは運営活動経費をすべて外部資金により賄い、社会実装を目指した研究活動を行うものとする。 また、この仕組みの導入に併せて、これまで進めてきた研究センター見直し結果を踏まえ、研究センターから教育研究支援センター等への転換、研究センターの集約・再編、リサーチユニットへの転換を実施する。</p>	<p>大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(略)</p> <p>4 世界トップレベルの研究の推進に向けての目標を達成するための措置</p> <p>(略)</p> <p>基盤研究の着実な実施及び学際横断型研究の飛躍的推進に関する具体的方策</p> <p>(略)</p> <p>26 重点的な研究支援を一層加速し、WPI「国際統合睡眠医科学研究機構」や計算科学研究センター、<u>生存ダイナミクス研究センター</u>(TARA)、人文社会国際比較研究機構、つくば機能植物イノベーション研究センター、下田臨海実験センター等を中心に世界トップレベルの研究を推進する。 &lt; KPI : 相当数の研究領域において世界 100 位以内を実現 &gt;</p> <p>(略)</p> <p>学内の研究システムの大胆な改革に関する具体的方策</p> <p>29 基礎研究、学際横断型研究、大学の戦略に基づく研究をバランスよく進めるとともに、各研究組織に対する支援や権能付与を全体として整合的でも評価に基づくものとするため、学内の研究組織を学術的な先端研究センターと開発研究センターに大別し、学術的な先端研究センターについては5年ごとに評価を実施し段階認定(4段階(R1~R4))を行う仕組みを導入する。なお、開発研究センターは運営活動経費をすべて外部資金により賄い、社会実装を目指した研究活動を行うものとする。 また、この仕組みの導入に併せて、これまで進めてきた研究センター見直し結果を踏まえ、研究センターから教育研究支援センター等への転換、研究センターの集約・再編、リサーチユニットへの転換を実施する。</p>	<p>研究センター改組に伴う名称変更のため</p>

<p>R1：世界級研究拠点 R3：重点育成研究拠点</p> <p>R2：全国級研究拠点 R4：育成研究拠点（リサーチユニット）</p> <p>&lt; KPI：平成 28 年度までにすべての研究センターの改組・再編・集約計画を策定し、当該計画に基づき改組再編集約を順次実施。 各研究センターに対する支援の内容・水準と各研究センターに付与される学内権能が、各段階に相応し、しかも全体として整合的であるように、平成 30 年度までに整理し、ルール化を実施。 &gt;</p> <p>29 の 2 「系」(以下のとおり)を中心に戦略的に研究を推進するとともに、学術的な先端研究センターへの 4 段階区分と 5 年ごとの評価に基づく段階認定の導入に際して、R1 世界級研究拠点として認定された以下に示す研究組織に固有の人事機関を置き、重点的な研究分野における研究戦略に基づく柔軟で機動的な教員人事を可能にする。</p> <p>系 人文社会系、ビジネスサイエンス系、数理物質系、システム情報系、生命環境系、人間系、体育系、芸術系、医学医療系、図書館情報メディア系、学際研究系</p> <p>R1 世界級研究拠点 計算科学研究センター、<u>生命領域学際研究センター</u>（TARA）</p>	<p>R1：世界級研究拠点 R3：重点育成研究拠点</p> <p>R2：全国級研究拠点 R4：育成研究拠点（リサーチユニット）</p> <p>&lt; KPI：平成 28 年度までにすべての研究センターの改組・再編・集約計画を策定し、当該計画に基づき改組再編集約を順次実施。 各研究センターに対する支援の内容・水準と各研究センターに付与される学内権能が、各段階に相応し、しかも全体として整合的であるように、平成 30 年度までに整理し、ルール化を実施。 &gt;</p> <p>29 の 2 「系」(以下のとおり)を中心に戦略的に研究を推進するとともに、学術的な先端研究センターへの 4 段階区分と 5 年ごとの評価に基づく段階認定の導入に際して、R1 世界級研究拠点として認定された以下に示す研究組織に固有の人事機関を置き、重点的な研究分野における研究戦略に基づく柔軟で機動的な教員人事を可能にする。</p> <p>系 人文社会系、ビジネスサイエンス系、数理物質系、システム情報系、生命環境系、人間系、体育系、芸術系、医学医療系、図書館情報メディア系、学際研究系</p> <p>R1 世界級研究拠点 計算科学研究センター、<u>生存ダイナミクス研究センター</u>（TARA）</p>	<p>研究センター改組に伴う名称変更のため</p>
---	---	---------------------------